

本願寺西山別院報

久遠

-QUON-

第46号

〒615-8107
京都市西京区川島北裏町
29番地
Tel:075-392-7939
Fax:075-394-4416
e-mail:nishiyamabetsuin@
msa.biglobe.ne.jp

本願寺西山別院 輪番
得度習礼所・教師教修所 所長
西山幼稚園 園長

中原 敬恵



お念仏が響く

短い梅雨があけてからの異常な猛暑続きの夏がようやく過ぎ、空の色も雲の形も、白洲にいと聞こえてくる虫の鳴き声も、すっかり秋らしくなりました。

秋は浄土真宗ではとても大切だと言われる『報恩講』の季節です。親鸞聖人のご法事にあたる報恩講は、本山本願寺では一月九日からご命日の十六日まで御正忌報恩講が勤まりますが、それに先立って、各地の寺院やご家庭で勤めるのが「お取り越し報恩講」。今日も日本のあちらこちらで、お念仏の音が響いていることでしょう。

お念仏の中に

私は、プロ野球球団の阪神タイガースを応援しているのですが、宿敵読売巨人軍のファンと比べて、「阪神ファンはタイガースが生活の一部、巨人ファンはジャイアンツが趣味の一部」と揶揄されます。からかわれているなど思うのですが、「生活の一部が趣味の一部」が余りにも上手く表現されていて思わず納得してしまいます。勝っても負けてもタイガースに振り回される毎日。自分の都合の良い時だけ応援するわけにはいかないのです。



ある先生のお話を拝聴していると、「日常の中にお念仏するのではなく、お念仏の中に生きていきましょう」とお話しくださいました。日々の自分の生活に追われて、思い出した時だけお念仏するのではなく、阿弥陀さまのお慈悲に包まれ、日々お念仏の中に私の生活がある。思い出した時だけ、自分の都合の良い時だけお念仏申すのではないのです。



親鸞聖人 御誕生
8500
立教開宗

お念仏と共に

専如ご門主様は今年の御正忌報恩講のご親教(ご法話)の中で、「どのような状況にあっても、これからも阿弥陀さまのおはたらきを聞き、お念仏の中に日々を過ごしてまいりましょう。」とお示しく下さいました。毎日の生活の中では、自分を生きることだけに一生懸命になってしまいがちですが、朝、目が覚めたから南無阿弥陀仏、ご飯をいただけただから南無阿弥陀仏、道を歩いたから南無阿弥陀仏、人と出会えたから南無阿弥陀仏。有り難いご縁の中で生きていることを感じ、いつも阿弥陀さまに見守られていることを聞かせていただきながら、小さいことにも感謝して過ごしたいものです。

詞花よりも愚痴や不満が多く出てくる私の口から、たくさんのお念仏が出てくださる。この口から出てくる南無阿弥陀仏のお念仏は、阿弥陀さまからの「まかせよ、必ず救う」のお心が私に届き、私の口を通して「南無阿弥陀仏」となって出てきたものです。有り難うと思いがながらお念仏させていただけたいです。

十月末には西山別院の報恩講が勤まります。共に、親鸞聖人のご生涯を偲びつつ、親鸞聖人のお示し下さった阿弥陀さまのお慈悲を聞かせていただき、我が口からお念仏が溢れてくることに感謝いたしましょう。
もちろん、毎日のお晨朝もお待ちしています。大切な一日を、お念仏と共に始めましょう。

報恩講法要のご案内

本年も、十月二十二日(土)、二十三日(日)に、西山別院本堂にて「報恩講」が勤まります。

親鸞聖人のご命日をご縁とするこの法要は真宗門徒にとって一年の中でもっとも大切な仏事です。西山別院では、ご本山の御正忌報恩講前のこの時期に「お取り越し」として、お勤めいたします。

親鸞聖人がご生涯を通してお示しくださった「われにまかせよ そのまま救う」の阿弥陀さまのみ教え。その真実のみ教えに出遇えたことを喜び、あらためて心に深く味わわせていただきます。

法要日程

2022(令和4)年
10月22日(土)

速夜:午後2時~午後4時頃

※大師影供作法に引続き法話

初夜:午後4時頃~午後5時頃

※正信偈(行譜)、御伝鈔拝読に引続き法話

10月23日(日)

晨朝:午前7時~午前8時頃

※往生礼讃(日没偈)に引続き法話

日中:午前10時~午後12時頃

※宗祖讃仰作法(音楽法要)に引続き法話



参拝者の皆さまの健康と安全を第一に、十分な感染症防止対策を講じ、密集を避けながら勤めさせていただきます。どうぞご参拝くださいますようお願い申し上げます。なお、今後のコロナウイルス感染症の拡大状況によっては、法要内容を変更する場合があります。ご了承ください。

境内清掃並びにお磨きのごお願い

お寺には、蠟燭立、香炉、輪灯、菊灯ほか色々な仏具があります。報恩講法要に向けて仏具のお磨きと境内の清掃を行いますのでご協力のほど宜しくお願いいたします。

ご参加いただける方は別院寺務所までお知らせください。時間内であれば、いつ来られても帰られても、短時間でもかまいませんので、是非ご参加ください。

お磨き(仏具磨き)のお願い

日にち:10月14日(金)
時間:9時30分~12時まで
ところ:本堂
受付:本堂前

境内清掃ご協力のごお願い

日にち:10月20日(木)
時間:9時30分~12時まで
ところ:書院並びに白洲
受付:西山別院南側(大玄関付近)

親鸞聖人のご生涯

親鸞聖人は、度重なる戦乱、災害も相次いだ平安時代末期から鎌倉時代にかけて、九十年のご生涯を歩まれました。



一 承安三年四月一日(新暦一七三三年五月二十一日)京都の日野の里(伏見区)にて誕生。



二 養和元(一一八二年)九歳の時、天台宗の慈円和尚のもとで出家・得度。



三 二十年に及ぶ比叡山での修行。「生死いづべき道」を求めて学問と修行に励まれる。



四 二十九歳の時、比叡山を下り、京都洛中の六角堂(頂法寺)を訪れ、百日間の参籠。



五 専修念仏を説く法然聖人の門下に入る。「選択集」と真影を写すことを許される。

『松に藤図四面』の修理が始まりました

今甦る

『久遠』第四十四号の誌上にてお伝えいたしました重要文化財「本堂障壁画八面」の修理事業について、二〇二二（令和四）年八月、修理施設がある京都国立博物館内文化財保存修理所を視察いたしましたので、進捗状況をご報告させていただきます。



明治時代またそれ以前の修理の際に施された修復箇所



襖の表側に卵型、裏側に御殿引手が使用されています。

本堂障壁画八面は、二〇二二（令和四）年三月に「桜に牡丹図四面」の修復作業が完了し、四月からは「松に藤図四面」の修理が始まりました。「桜に牡丹図四面」は、当初、剥落が特に進行しており絵具層が大変危険な状態であったため、別院内で絵具養生が行われましたが、「松に藤図四面」は、そこまでの状態ではないとの判断から修理施設まで搬入した後、材質や構造などの調査が行われました。

今回の視察では、特に剥離止めを施されている箇所を確認させていただきました。文化庁並びに文化財保護課の担当技官からは、剥離止め作業の後は、肌裏紙（第一層目の裏打紙）を除去するための表打ちの工程に入り、襖の構造が安定して保存されるように明治時代またそれ以前の修理の際に施された旧補修紙は、除去せず原則残して修復作業を進めてゆくとの説明がありました。関係者の皆さま方のお陰により「松に藤図四面」が、徐々に甦っています。順次、修理状況の報告をさせていただきます。

◆一六一八（元和四）年頃 徳力善宗作
江戸初期の本願寺お抱え絵師、徳力善宗の現存する唯一の作品。
画面いっぱい描かれた巨大な老松に絡みついた鮮やかな紅が印象的な牡丹。桃山文化の気風を受け継いだ絢爛な金障壁画。（非公開）



桜に牡丹図

松に藤図

重要文化財指定【絵第1823号】昭和56年6月9日指定
本堂障壁画 八面
紙本金地著色松に藤図 襖貼付四
紙本金地著色桜に牡丹図 襖貼付四
寸法：各縦210.8cm 横101.3cm



六 承元の法難によって越後（新潟県）に流罪。これを機に愚禿親鸞と名のられる。



七 越後 在俗のままで念仏の生活。三善為教の娘・恵信尼さまと結婚。



八 常陸への旅立ち 建保二（一二二四）年 四十二歳の時、妻子と共に越後から関東に赴かれる。



九 板敷山弁円の改心 弁円、親鸞聖人と出遇い、刀杖を捨て改悔涕泣し弟子となる。



十 関東（福田の草庵）を拠点に二十年に亘り布教。元仁元（一二二四）年頃に「教行信証」を著作



十一 嘉禎元（一二三五）年 六十三歳の頃帰洛。晩年まで「教行信証」を添削され、「和讃」などを著作



十二 弘長二年 十一月二十八日（一二六三年一月十六日）弟鼻有さまの善法院（角坊）でご往生

盂蘭盆会厳修

うらぼんえごんしゅう

二〇二二(令和四)年八月十四日(日)西山別院本堂、共同墓碑『和合海』において盂蘭盆会を厳修いたしました。

今年も新型コロナウイルス感染防止並びに熱中症対策として三部制とし、第一部は一般の皆さま、第二部並びに第三部は初盆をお迎えされたご家族をご案内してお勤めいたしました。

また、午後からは共同墓碑『和合海』前においても法要を厳修し、有縁の皆さまとお勤めいたしました。

亡くなられた方々のご恩に思いを寄せ、尊いご縁であったと仏さまに手を合わせて、心静かにお念仏させていただきました。



仏説阿弥陀経をお勤めいたしました。



中原輪番より法話



共同墓碑『和合海』

「貧困の克服に向けて～ Dāna for World Peace ～」—子どもたちを育むために—

今年もやります!!

書きそんじハガキ
ありませんか?!

うっかり書きそんじてしまった未投函の郵便ハガキ、使っていない切手を今年も集めています。

ダンスの中に、こうした「ダンス遺産」が眠っていませんか?

未投函の郵便ハガキ、使っていない切手を募金にかえて「学びの場」を世界に広げていく「世界寺子屋運動」という取り組みがあります。

「ダンス遺産」の寄付は身近にできる国際協力です。ご協力をお願いいたします。

ハガキ等は、本堂前の回収箱に入れていただくか、別院寺務所までご持参またはご郵送ください。

※第二回書きそんじハガキ・回収キャンペーンとして、二〇二二(令和四)年十月末まで受付いたします。なお期間外も、ハガキの回収は一年中受け付けています。

※住所や名前などの個人情報、ペンなどで塗りつぶすなどしてから、ご寄付ください。

※ご寄付のハガキ等は「日本ユネスコ協会連盟」へ送付いたします。

西山別院仏教婦人会





台風の前報でしたが、夏まつり中は快晴



♪もったいないことしてないかい♪の音頭にあわせて元気に踊りました。



最後は阿弥陀さまに合掌・礼拝。みんなキチンと出来ましたね。



夏まつり 西山幼稚園

九月一日(木)から二学期がスタート。園児たちは、たくさん思い出を抱えて賑やかに登園してきました。九月六日(火)は、延期になっていた夏まつり。白洲に遊具で櫓を組んで、みんなで盆踊りです。いつもの制服と違う衣装で、練習した踊りを披露してくれました。盆踊りは、念仏踊りが起源とも言われ、「なもあみだぶつ」と唱えながら阿弥陀さまへの感謝をあらわした踊りだそうです。園児たちも阿弥陀さまに見守られ、すくすく成長中です。

令和5年度

入園願書受付 10月1日(土) 午前9時～正午

西山幼稚園

〒615-8107 京都市西京区川島北裏町29

TEL:075(381)3610 FAX:075(381)3614

<http://nishiyama-child.net/>




「貧困の克服に向けて～Dāna for World Peace～」-子どもたちを育むために-



西山幼稚園の卒園児保護者会が中心となって、西山別院を依処として、学区を越えた地域交流の様々な活動に取り組んでいます。

西山御坊ぎんなん会

開催日時 令和四年 九月三十日(金) 九時三十分～十二時

場所 西山別院 対面所・本堂の廊下

主催 西山御坊ぎんなん会

お釈迦さま以来、仏教が大切にしてきた「布施」の精神をもとに、貧困に苦しむ国内の子供たちへ届ける「子どもたちの笑顔のために募金」支援活動の一環として開催いたします。

ぎんなんフリーマーケットのご案内



西山別院の文化教室

茶道、書道、ヨガの教室を開催中。
体験・見学からという方もお待ちしております。
お問い合わせは、別院事務所まで。
「電話」〇七五―三九二―七九三九 「受付時間」平日の九時〜十七時

茶道教室

茶道は「薄茶一服に心を預けて」

あわただしい現代社会ですが、その中一刻立ち止まり、美しい書院でお茶一服いただくのは至極の時間、世俗から切り離された心静かな別世界です。

月三回土曜日の十一時から茶道教室「碧窓（か）会」を開いています。

お茶の稽古を重ねて、優美で自然な仕草が身に付き、炭は湯の沸くように、花は野にあるように、また全てに感謝ができる素直な心を持ちたいと思っています。

お気軽にお越しください。
お茶一服ご一緒しましょう。

裏千家教授 徳田宗忠（とくでんむねちか）



ホームページ
<https://hekisouan.club>



書道教室

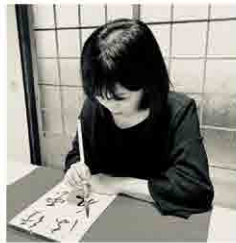
書道で心を「Detox」

習ったことのない方、長く習ってきた方、書風がそれぞれあると思いますが、なかなか思うようには出かかれられない今日、イライラやモヤモヤも多いかと思えます。ほんのひと時も考えず、ただ書くことに集中するのは脳内をデトックスすることにもなるかと思えます。

お寺でお経書いてみませんか？

感染対策として、検温、体調チェック、間隔を十分に空けて席の配置をしております。

開催日：第二、四水曜日の夕方五時過ぎより



かどや 角屋あづさ先生



ヨガ教室

自分の身体と心に向き合う

西山別院でのヨガ教室はコミュニティの場となることを目的に開始して七年が経ちました。今では御門徒様、幼稚園の保護者様、地域内外の皆様が繋いでくださり多くの方々にご参加いただく教室となりました。

コロナ対策をしっかりしながら、ゆっくり、ゆったり・頑張らないヨガを心がけています。

参加者の皆様、西山別院の方々のご理解のもと一緒に温かく、優しい時間と空間を創っていく喜びを味わっています。

ヨガのご経験のない方も、いつでもお待ちしております。



おかはしゆきこ 岡橋如子先生



ホームページ
<https://nisiyama-betuin.jp/yoga.html>



✈️ インド紀行 佛足に額づいて⑤

西山別院仏教婦人会会員
柳瀬千代子



一九八八(仏歴二五三二)年一月二十日〜二月三日
仏教の開祖である釈尊が、お生まれになり、悟りを開かれ、法を説かれ、入滅された地インド。日本人が古より「天竺」と仰いできたインド。かつては遠い遙かな国「天竺」も今では日本から飛行機で八時間ほど。釈尊の足跡を慕い巡拝された柳瀬千代子さんの紀行文です。

一月二十二日

ラージギール法華ホテルで久々の日本食。みそ汁、茄子の田楽に同行の皆様も大喜びでした、とても美味しかったです。ラージギール(王舎城)参詣を前に同行の伊藤法嶺先生からホテルの中庭で御法話をいただきました。露天の下 みんな裸足になり「王舎城の悲劇」について お聴聞いたしました。

「王舎城の悲劇」マガダ国(古代インドにおいてガンジス川下流域に位置した国)のピンバシヤラ王(頻婆娑羅王)とその妻ヴァイデーヒ(韋提希夫人)の物語。

ピンバシヤラ王の閉じ込められた牢獄跡に立っています。遙か東の方には、ラージギールの山を拝むことが出来ます。かなり広い場所で、周囲はしっかりと石垣が残っています。

韋提希夫人は、今 私の立っている所も、或いは通りすぎて 王に会いに来られたのではないかと。今といっても 何十年の昔といっても 人間の心は少しも変わらないのではないかとそれ故にこそ尊い教えが、ご苦労があったのです。

この地で佛説観無量寿経が説かれたといわれています。



「王舎城の悲劇」の牢獄跡

ばあちゃん(母)へ

靈鷲山にきました。かなりの山道を登っていきます。その名は鷲の形に似ているので、靈鷲山と名付けられたといわれます。この山の上で 明け方の明星を見て覚りを開かれたといわれています。とうとう来ました。

あつい想いがこみ上げてきます、思わず大地にひれ伏して合掌いたします。この地で お覚りをひらかれて八十年その御生涯を終えるまで 説法を続けられるのです。

この坂道は、登り道を、或いは下りの時、お釈迦様の踏みしめられた御御足のその真上を私は今、踏みましたかも知れないのです。それ程尊い山なのです。



鷲が峰(靈鷲山)



尊い山を歩かせていただく。釈尊のみ教えに帰依したピンバシヤラ王が整備された靈鷲山までの道



靈鷲山頂上



西に向かって佛陀は、説法なされたと思われま

どこまでも どこまでも続くインドの大地 農村地域を通り抜け牛と人とレンガの家と子供達と。次は、ブッダ・ガヤーの日本寺に向かいます。

我聞如是。一時佛住王舎城。耆闍崛山中。與大比丘衆。萬二千人俱。と佛説大無量壽経も、この地で説かれたと謂われております。その様な尊い地に私をたたしめて下さったものは、何でしょうか。

擬宝珠(がぼし)

最近、読めるけど、なかなか書けない字を練習してるとだ。

大衆！

薔薇(ばら)
檸檬(れもん)
躊躇(ちゅうちゅう)

擬宝珠

「じゃあ、これ知ってる？」

何て読むの？ボクの知ってるもの？

擬宝珠

「はね、これ」

「がぼしだね。橋の欄干や寺院建築によくみられる装飾金具のことだよ。」

擬宝珠は、仏や仏の教えの象徴とされる宝珠の形を模したものだ。濁った水に入れても宝珠はさびないことから、親鸞さまは「南無阿弥陀仏」の名号

擬宝珠

「南無阿弥陀仏」

「た」とえられて

お寺にある実物をみにいこう。

かあ、コレ

MARU

水蓮

西山光とくまちゃん

こんな写真あんな写真

今回も別院職員からの別院あれこれ投稿です



花火
夏のある日の夜、本堂から綺麗な花火が見えました。



境内作品展
お寺の開門後、境内でこっそり作品展が開かれています。なかなか芸術的です。



大文字
京都の夏の風物詩「大文字」帰宅途中に見えました！



輪番の野菜畑
別院内にひっそりとある輪番の秘密の野菜畑。今年も大収穫となりました。(ごちそうさまです 職員一同)



朝掃除
ある朝のお掃除、西山幼稚園卒園児が草抜きを手伝ってくれました。おかげで綺麗になりました。助かりました！ありがとうございます！また、よろしくお願いします。



あなたのお便りや写真をお寄せください。

あなたが体験したうれしかったこと、誰かに聞いてもらいたいことなど、身近な話題をどうぞお寄せください。

皆さまからお送り頂いた写真を掲載いたします。
ご家族、風景、植物、可愛いペットなど

送り先
〒615-8107
京都市西京区川島北裏町 29 番地
本願寺西山別院「久遠お便り」係
e-mail : nishiyamabetsuin@msa.biglobe.ne.jp

投稿には、お名前(ニックネーム可)、ご住所、お電話番号をお忘れなく。作品は、必ずご紹介できるとは限りません。また、作品のご返却はいたしかねますので、あしからずご了承ください。

ご報告

八月十八日に職員一名が新型コロナウイルス感染症に罹患したことが判明しました。直前に当該職員が参勤で伺ったご家庭にはご連絡させていただき、併せて別院各所の消毒を行いました。他の職員については、念のためPCR検査を受検いたしました。が全員陰性でありました。
今後も別院内における感染対策を徹底すると共に、職員各自が体調管理を行いながら寺務に勤めさせていただきます。